

未だに見つけられないキノガサタケ

宮林 八男

千葉菌類談話会のことを知ったのは設立間もない頃と記憶する。近所に、千葉県立農業大学校で植物病理の講師をなさっていた西原夏樹さんという方がおられ、きのこを深く知りたいのならと、吹春俊光先生を紹介していただいた。これがことの始まり。それ以来、毎年観察会や講座などの行事に参加させていただいている。おかげさまで数多くのきのこを知り、いまでは自信をもって食することができるきのこは十数種に及ぶ。吹春先生の長年のご指導に対し心から感謝申し上げたい。

さて、きのこの女王とか竹林の女王と呼ばれるキノガサタケのこと。このきのこを探し回って数年経つが、未だにして見つけられずにいる。去年は、地元東金市の竹林3ヶ所を6月から7月にかけて、殆ど毎日約2時間、カメラをぶらさげ、地面をなめるようにして見回った。あっ、幼菌かなと、思ったらなんとゴルフボール。こんな場面に4回出会った。どうしたら見つかるか、キノガサタケへの思いはつのるばかり。とうとう9月6日、千葉県立中央博物館で開催された吹春先生の「きのこの話」について講話された席で大変不躺な質問をした。「キノガサタケの発生時期と環境を教えてください」と。予期したとおりの回答はこの場では得ることはできなかったが、帰り際、吹春先生の奥様から懇切丁寧なご教示をいただくことになった。また、今度見つけたときはお電話くださるとの約束までしていただいた。とてもうれしいかぎりです。

ところで、一昨年(2008年)の4月から千葉県立生涯大学校に通い陶芸を勉強している。2年の1学期は、「キノガサタケをモチーフにしたラン



自作のランプシェード

上はひも作りで下はろくろ作り

プシェードの制作」の課題に取り組んだ。構想から完成まで7ヶ月かけて作品3点を仕上げた。キノガサタケの実物も標本も観ず、文献と図鑑を頼りに制作し、なんとか出来上がった。

2010年は、どうも発見できそうな予感がしてならない。吹春先生、そして会員の皆さま、どうかご助言をよろしくお願いします。もし、見つかったら良く観察し、ランプシェードの作陶に再挑戦しようと思っている。